

津別町森林バイオマス熱電利用構想報告会開催

平成27年2月9日に津別町林業研修会館集会所で、町民など85名の参加を得て「津別町森林バイオマス熱電利用構想報告会」を開催しました。その内容について、今月号から2回にわたり報告します。今月号では津別町森林バイオマス熱電利用構想の取組について報告します。

報告会の内容

- 報告会は次の内容で開催しました。
- ① 活動報告：津別町森林バイオマス熱電利用構想の取組について（津別町 役場産業振興課 参事 小南雅彦）
 - ② 基調講演：再生可能エネルギー導入による地域活性化について（一般社



報告会の開催状況

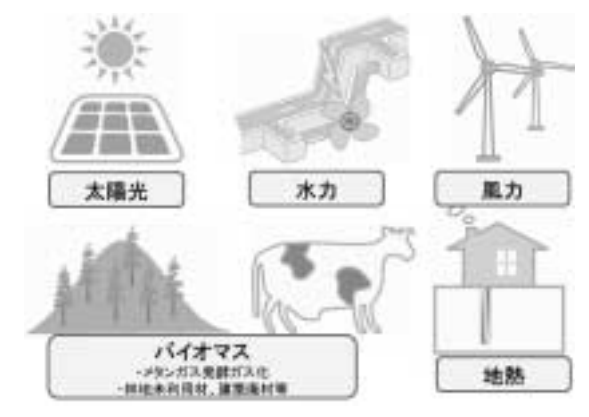
団法人北海道再生可能エネルギー振興機構 理事長 鈴木亨氏）

③ 基調講演：津別町森林バイオマス・エネルギーの農業利用の可能性と課題（株式会社アジア地域連携研究所 代表取締役研究所長 飯澤理一郎氏）

津別町森林バイオマス熱電構想とは？

津別町森林バイオマス熱電利用構想は、再生可能エネルギーである木質系バイオマス資源を活用した資源循環型による環境にやさしいまちづくりと新たな地域産業の振興を目指す構想です。

再生可能エネルギーとは、太陽光や風力、水力、バイオマス（家畜ふん尿による発酵ガスや木材資源等）など、使っても資源が減ることがなく、時間をおけば元通りになるエネルギー源で、発電時や熱利用時に二酸化炭素をほとんど排出しない優れたエネルギーのことを言います。

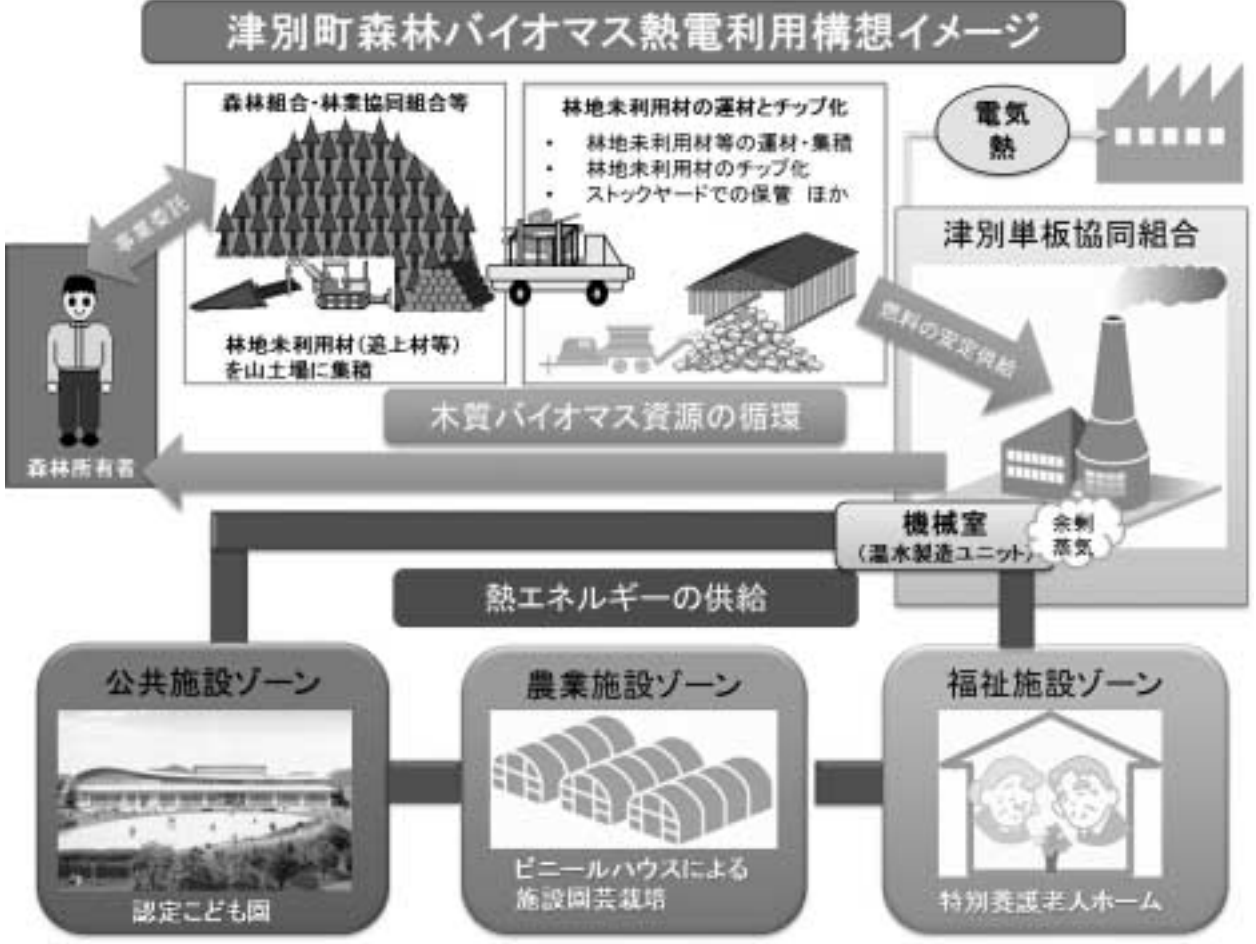


再生可能エネルギーの種類

丸玉産業株式会社（津別単板協同組合）の木質系バイオマス活用の取組

津別単板協同組合では、平成19年にバイオマスエネルギーセンターを整備しました。

このバイオマスエネルギーセンターには、木質系バイオマスボイラー（コージェネ）が整備され、合板を製造する過程で発生する木くずを燃料にして蒸気を発生させ、工場で使用する熱と電気のはぼすすべてを供給しています。これまでは木くずとして廃棄していたものを資源（燃料）に変えるという発



熱エネルギーと木質バイオマス資源の循環イメージ



山から林地未利用材を運搬している状況

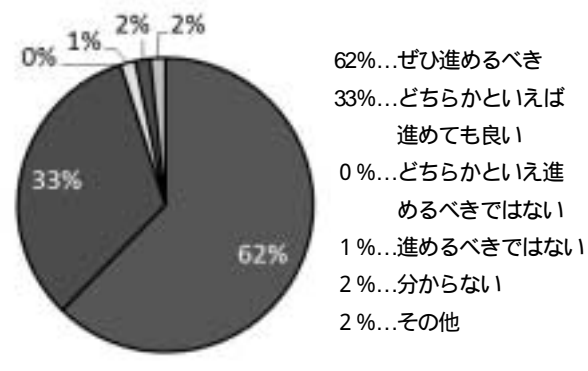
画が実現すれば官民連携した熱エネルギーの地産地消の取組となり、全国的にも事例のない取組になります。

熱の供給を行うためには津別単板協同組合のバイオマスエネルギーセンターを中心に二つの供給システムを構築する必要があります。

- ① バイオマスエネルギーセンターから認定こども園、特養施設、農業用ハウスなどへの熱エネルギーの供給システム。
- ② 燃料となる森林バイオマス資源の供給システムで森林整備事業で発生する林地未利用材（木材として活用できない部分の材）の安定供給に向けた体制整備。

この二つの供給システムを整備する必要があるので、現在、地域の各関係機関の協力を得ながら検討を進めているところです。

津別町森林バイオマス熱電利用構想の取組



構想が実現されることで地域の再生可能エネルギーを活用した資源循環型・低炭素社会の構築が図られるとともに、林業の活性化や新たな雇用創出などによる地域振興も期待できます。

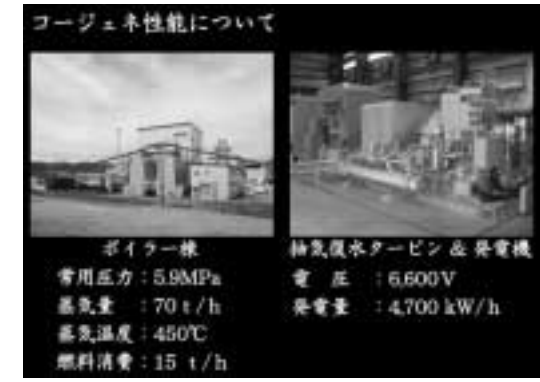
また、報告会参加者を対象に実施したアンケート調査の結果では、95%の方から構想の取組を進めるべきとの回答をいただきました。

こうしたことを踏まえ、今後も町民が安心して住める「エコタウンつべつ」を目指し、地域で連携しながら取組を進めて行きたいと思っております。

エコタウン津別を目指して

津別町森林バイオマス熱電構想の具体的な取組内容

構想には津別単板協同組合の木質系バイオマスボイラーの余熱熱を活用し、認定こども園、特養施設、農業用ハウスへ熱エネルギー（温水）を供給する計画があり、平成26年度から具体的な調査に取り掛かりました。この計



津別単板協同組合が整備した木質バイオマスボイラーと発電施設

想の転換により、原油換算で年間約2万4千 kl （一般家庭1万6千戸相当）の削減を行い、新工大賞・経済産業大臣賞などの多くの賞を受賞しました。